子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal pre-pregnancy body mass index and related factors: cross sectional analysis from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊婦における社会経済要因(教育歴、世帯収入、婚姻状況、就業状況)・喫煙と妊娠前の低体重・肥満の関連

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 旭川サブユニットセンター

発表雑誌名: PLOS ONE

年: 2024 DOI: 10.1371/journal.pone.0304844

筆頭著者名: 西條 泰明

所属 UC 名: 北海道ユニットセンター

目的:

本研究の目的は妊婦における社会経済要因(教育歴、世帯収入、婚姻状況、就業状況)・喫煙と体格指数(Body Mass Index: BMI)で判定した低体重、肥満との関連を検討することである。

方法:

エコチル調査に参加した 96,751 人の妊婦を対象とした。妊娠前の BMI を 5 群(16.9 以下(重度の低体重)、17.0-18.4(軽度の低体重)、18.5-24.9(正常範囲)、25.0-29.9(過体重)、30.0 以上(肥満))に分類し、正常範囲(18.5-25.0)(20.0-24.9)を対照として社会経済要因(教育歴、世帯収入、婚姻状況、就業状況)・喫煙と正常範囲以外の BMI となることの関連について検討した。

結果:

短い教育期間と低い世帯収入は過体重、肥満に関連していた。重度の低体重には中学校までの学歴が関連していた。主婦/無職が重度の低体重、過体重、肥満に関連していた。未婚/死別は軽度の低体重に関連していた。喫煙は重度と軽度の低体重、過体重、肥満の全てに関連していた。

考察(研究の限界を含める):

短い教育歴はヘルスリテラシーに影響している可能性があり、低い世帯収入は望ましい食習慣の達成を難しくする可能性があるかもしれない。無職であることはストレスとなり食習慣に影響する可能性がある。また、体重減少を目指して喫煙することが影響している可能性が考えられる。ただし、本研究は一時点の横断的研究のため、長期的影響を明らかにすることはできない点に限界がある。

結論:

若年女性で教育歴が短いこと、世帯年収が低いこと、喫煙していることは重度の低体重や肥満と関連し、予防が重要であることが示唆された。主婦/無職は重度の低体重、過体重、肥満と関連した。